

庭にて思う

吉川 繭子 岡山県岡山市 三十五歳

たわわに実ったピーマンに水をやりながら、生活が随分変わったなあ、と思う。庭では蝉が大合唱、たくさんのプランターに豊かに育つ野菜やハーブ達。小さなレモンの木に、大きな揚羽蝶がひらりととまる。

以前の我が家は、外食や旅行が大好きだった。週末が来るたび、家族で色々なところに出かけていた。家庭菜園に興味を向ける時間が無かった。夏の庭に並ぶのは、海水浴で使った水着やスィムシューズ、空気の抜けた大きな浮き輪だった。

それがいまや、と庭を眺めながら思う。我が庭はたくさんの愛すべきみどり達で溢れんばかりになっている。ピーマン、トマト、甘長、レモン、バジルやローズマリー・・・水着の干場がなくなつて困るほどだ。

きっかけは、外出を控えるようになったので、自宅でお手製のピザを焼いてみようと思つたことだった。せっかくなので、具材も自分で育てて収穫したものを使ってみよう。どうせ家にいる時間が長いのだ。すぐに作つてしまつてはつまらない。どうせなら、うんと時間をかけてこだわりのピザを作ることにした。

いくなれば、数か月かけた暇つぶしのつもりだった。それが・・・みどりにどハマリ。植物たちはなんと愛おしいのだろう。みどり溢れる我が庭は、なんと癒されることだろう。今では水やりを気にして、一日家を空けることも気になる有様である。

わたしはみどりを愛するようになった。新しい生活様式のおかげである。